



横浜陶芸友の会だより

第156号
平成25年
10月1日発行

役員会の報告

8月10日炎暑の中、新会長高橋光男さん始め各部16名の方々が出席され今後の行事等について話し合いがされました。

- 窯場見学会（見学先、日程等決定）
- 作品展（会場、日程決定）
- 秋期焼成会

今夏は厳しい暑さでした！
皆様体調は万全でしたか？

本号発行の頃は作品展に向けてエンジン始動です！

お正月に皆様とお会いできるのが楽しみです。

総務 池見

「第35回 作品展」のお知らせ

事業部

今年度の作品展の会場と日程をお知らせいたします。

長く会員の皆様方に親しまれてきました「横浜市民ギャラリー」から「かなつくホール」へ会場を移し開催いたします。

新たな「会長・副会長」が選出され一年がはじまります。会員皆様方にはご協力をいただき「陶芸友の会」を盛り上げましょう。

お互い陶芸を愛好するものとして、一人でも多く積極的な参加をお願いいたします。

申し込みと作品展の詳細は、12月15日ギヤラリーとの打合せ後会員の皆様に送付いたします。

出展料は、友の会への賛助会費となっております。区画はギリギリではなく、ゆとりのあるスペースで申込みましょう。

かなつくホール

横浜市神奈川区民文化センター

〒221-0044

横浜市神奈川区東神奈川1-10-1

TEL:045-440-1211 FAX:045-440-1139

受付時間 9:00～21:30

※ 毎月第3月曜日（祝日の場合は翌日）は保守点検日のため、かなつくホールのすべての施設をご利用いただけません。
また、年末年始（12月29日～1月8日）は休館とさせていただきます。



〔会期〕平成26年1月14日(火)～1月19日(日)

〔会場〕かなつくホール3階 ギヤラリーA
(神奈川区民文化センター内)

〔時間〕10時～18時

〔特設コーナー〕

割り山椒

* 出展料は無料

〔住所〕横浜市 神奈川区 東神奈川1-10-1

〔交通〕京浜東北線「東神奈川」徒歩1分
京浜急行本線「仲木戸」徒歩1分

① 交通案内

JR 東神奈川駅から

京浜急行 仲木戸駅から

連絡橋「かなっくウォーク」徒歩1分

東急東横線 東白楽駅から

徒歩10分



② 周辺駐車

③ 宅配案内

神奈川東神奈川駅前センター
 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川 1-5-10
 0570-200-728



営業所止置きサービス

サービス内容



お客様のご希望により、全国の宅配業者所で荷物のお引き取りが可能なサービス(無料)です。
 通常の通り方で輸送にご指定いただけます。

宛名の書き方

- 下記のようにご指定の宅配業者所の郵便番号、住所および営業所名と、
 ご来店されるお客様の氏名および電話番号を、通り状のお届け先欄にご記入ください。



※詳細はヤマト運輸ホームページにてご確認ください。

「おじゃまします」
 【作業場拝見】 その③

焼成窯を持ち、日夜作陶に勤しんでいる会員の方をお訪ねし、その作業場や作品作りへの思いなどを、皆様にご紹介していく第三回は今年度、新しく副会長になられた鈴木貴久（通称ドン）さんです。



愛用の湯のみと鈴木貴久さん

【鈴木貴久さんとの談話】

① 陶芸をはじめのきっかけは？

・ 友の会の先輩に『自作のぐい飲みは酒が旨い』と騙されたのがきっかけ。

② 長く続けられたのは？

・ 不器用な割りに、こだわりが有るからでしょう。

○ 例えば、どのようなこだわりが？

・ シンプルな調合の釉薬で自然な色を出したい。その為に土や灰の品質にこだわりたい。藁灰は山口と山形の無農薬米

を3通りの時間（2時間、3時間、4時間）ポットミルで播つたのを使い分けています。自分の可能な範囲で良い素材を集めています。

③ 陶房はいつ、どの様なきっかけで？

・ 陶房という程のものは所有していませんが窯小屋は鉄骨で、設計施工共ひとりで作りました。最初はガス窯も自作しましたが失敗でした。

○ 現在の窯には、満足ですか？

・ 本当は壁の厚い窯が欲しかったのですが、庭が狭いので断念しました。焼成を工夫するようにしています。



自作の窯小屋と灯油窯

④ 作陶はいつおこなっていますか？

・ 日曜日と仕事の無い時の祭日です。



道具が整理された作業場

⑤ 個展などの活動は？

・ なかなか気に入ったものが作れないので発表の活動は無いに等しいです。

⑥ 今後、作陶への課題は？

・ 年毎に無くなってくる体力と、気力の維持につきます。

⑦ その他

・ 晩酌に、美しい器で酌するのを楽しみます。若いころに比べ酒量が減った？と思うので器にはこだわりたいです。



たっぷり入る徳利各種

○ 鈴木さんの陶房は、環状2号線の新横浜に近い菅田町にある住宅地の一角です。

陶房は車庫を改築したもので、電動ロクロ2台と手回しロクロを使い、3〜6人が月一回の教室で作陶をおこなっています。

自宅の灯油窯だけでなく、身延には穴窯があり、年に一度仲間と窯焚きを行っています。今年度の作品展で、どんな作品が出てくるのかとても楽しみです。

（文責）鍋島弘義

『窯場見学会』参加者募集

事業部

今年度の窯場見学会は、渋草焼・小糸焼を訪ねます。

見学する窯元は二つですが、飛騨高山の他の工芸品等も見学させていただきました。

渋草焼

渋草焼は江戸末期天保十二年（1841）に半官半民の陶磁器製作所が、「渋草」の地に開窯されたのが始まり。開業に当たって、尾張瀬戸・加賀九谷から職人（戸田柳造・小林伊兵衛・川上齊助・曾我竹山・富士造・周山・等）を招き、原料も地元の陶石を探查発見し（渋草陶石）飛騨九谷、飛騨赤絵と呼ばれる優れた作品を生み出した。

江戸幕府崩壊後、一時衰退したが、明治十一年高山の実業家、三輪源治郎を初めとする有志によって引き継がれ、後藤象二郎、勝海舟、山岡鉄舟などの関わりを得て、「芳国舎」として再興され、現在に続く。

製品は、九谷・有田・京都・瀬戸・美濃の手法を学び、深みのある白磁で独特の渋草調になっていて、染付・赤絵・白磁・鉄砂・南京写等多岐にわたる。

小糸焼

小糸焼は寛永年間、飛騨を治めた金森家三代・重頼により、京の陶工・竹屋源十郎を招き「小糸坂」に開窯したのが始まり。伊羅保釉を特徴として、青伊羅保を独自の釉薬として持つ。

今の窯元当主は、長倉靖邦(号は泰山)で、茶道・飛騨高山宗和流十六世家元でもある。

他の見学先

【春慶会館】

千宗室によると、金森宗和によって創成され、茶人である宗和の指導によって、天然の木目を生かした素朴で簡素な独特の味わいを持つた塗が生まれたと言う。春慶会館は、これら様々の、春慶塗りの技法や作品を見ることが出来る。

【円空仏】

円空は、美濃国に生まれ、法隆寺（奈良）、円城寺（滋賀）、輪王寺（栃木）などで受法して法脈を継ぐ一方修験者として大峰山（奈良）、伊吹山（滋賀）、二荒山（栃木）など霊山に登り、その途次立ち寄った集落で仏像を造り、その数125000体以上と言われ、現在でも5000体以上の円空仏が知られている。その円空仏が飛騨高山の北部の千光院に多数展示されている。一月十二日から四月七日まで東京国立博物館に貸し出されていた。

【古い町並み】

飛騨高山の中心街に三町伝統建造物群保存地区がある。その中の上三之町は特に古い雰囲気保存されている。散策するのも一興。近くに飛騨高山まちの博物館があり、高山の成り立ちや継承されている文化などの展示が見られる。

日程

〔期日〕 11月8日（金）～9日（土）

〔行程〕

8日（金）

7:30 新横浜 集合

7:52 (ひかり503) に乗車 出発

9:19 名古屋 到着

9:45 (ワイドビューひだ5号) 乗車

12:31 高山 到着

(午後) 窯場見学

9日（土）

円空仏、春慶会館、古い町並み散策

13:30 (ワイドビューひだ12号) 乗車 出発

16:02 名古屋 到着

16:35 (ひかり474) 名古屋 出発

18:21 新横浜 到着 解散

参加形態

① 全行程同行と ② 往復乗車券自己手配の二通りを用意しました。申し込みの際ご記入ください。又、②の方はワイドビュー

ウひだ5号に乗って、高山で集合して下さい。

集合場所

① 全行程同行の方…横浜線北口で改札を出て、右手に回り緑の窓口前。

② 往復乗車券自己手配の方… ワイドビュウひだ5 現地(高山)。改札口 出口

費用

- ・全行程同行の会費 四万五千元
- ・往復乗車券自己手配の会費 一万八千元

申し込み先

※ハガキで氏名・住所・参加形態・電話番号(当日携帯される携帯電話があれば、それも併記して頂く方がベターです)を記入してください。

・締め切り日 10月15日
・募集人数は、バスの大きさの為、最大事業部の担当を含め25名です。

・ハガキが到着したら、会費払い込みの口座番号、その他、現地案内図等、資料を送ります。

秋の焼成会

初回 9月1日

第二回 9月22日

今年度の最初の行事である焼成会の受付が始まりました、取材にお邪魔したら、専修部ではなんと来年の講習会に向けての下準備に入ったようです。それは、木の葉天目・・・あこがれですよ〜(筆者の独り言)素焼きして、釉掛けをした器に、棕の木の葉を乗せ、葉が動かないように重石(素焼きのかけら)を乗せ、もう一度素焼きして、そ〜とかけらをはずして、本焼きという手順だそうです。



素焼き、釉掛けの済んだ器に生の葉を乗せた状態

葉が動かないように重石を乗せてもう一度素焼きを待っています



気になっていた、棕の木の葉の燃え具合はなかなか思うように、形のまま灰になるわけには行かないようです。そっくり返ったり、二つに割れたり、釉薬がはがれたり、なかなか手ごわいようです。でもそこは長いこと陶芸に拘わって来たベテランの人たち、額を寄せ合ってあーでもないこーでもないとい〜いい考えが浮かんだようですよ〜。今回はここまで。お正月号には、窯出しをした作品が、そしてそれは かなつくホールの展示室で目にかかることが出来るのでは、〜乞うご期待!



2度目の素焼きが終わりました。

素焼きをすると葉脈だけが残りました



陶陶さん

工夫もまた
楽しいですね

第 78 号

あかほし



取材 広報部 小松



秋の焼成会風景

編集後記

みなさん、友の会だより 156 号はいかががでしたか。作品展の新しい会場と期日が決まりました。作品展の新しい会場と期日が決まりました。会場確保に当たられた事業部のみなさんありがとうございました。新しい会場で、また仲間の作品に出会えるのが楽しみです。

窯場見学会は、飛騨高山方面で、伝統の渋草焼、春慶塗り、円空仏、その他と今回も魅

かなつくホールの下見を行います。お時間のある方は一緒にしましょう。申し込みはいりません。

11月22日金曜日17時
3階のギャラリー前にお集まりください。

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより
第 156 号
(平成 25 年 10 月 1 日発行)
発行人 横浜陶芸友の会
会長 高橋 光男
編集責任者 広報部長 吉良謙

今年もパソコンは私の思いどころにならず、苦勞しました。 小松

今年のは夏は殊の外暑かったので、彼岸花の咲くこの季節が有難いです。これから紅葉狩り・窯場見学の旅と楽しい事が続きます。広報印刷終わったら、作品展に向けての作品作りもそろそろ始めます。 信岡

力あふれる旅になりますね。いいですね。また、「作業場拝見」の鈴木貴久さんの工房も素敵ですね。ドンさんのお人柄が会話の中にもあふれています。まるで得意のぐい飲みから名酒があふれ出てくるようで何だか嬉しくなります。酒器一筋にこだわるその姿がまぶしいです。

そして最後に、編集の影の功労者、小松さん、信岡さんに拍手です。 松崎